

一

次の文章を読んで、後の問い(問一〜十二)に答えよ。(解答番号

1

15)

荷札木簡を読みとく

荷札木簡(*1)は面白い。

荷札は、荷物に括り付けられ、全国各地から都まではるばると、時には八〇〇キロを超える旅をした。荷物に括り付けるために、荷物の特徴や、荷物の大きさ・形状といった梱包の様子にあわせて形状も工夫される。だから逆に、荷札の形状から、荷物の様子や、梱包、荷造り作業の仕方を知ることができるかもしれない。また、長い旅の道中、荷物と一緒に風雨にさらされながら運ばれるのは、丈夫な木簡ならではの利用方法だ。木簡特有の利用法、書かれた文字と形状の総合的分析など、荷札木簡はまさに木簡研究の醍醐味が凝縮された素材である。

しかも、荷札の細かな分析は、日本古代国家の本質にも直結する重要な事実を伝えてくれる。というのは、荷札が付けられる荷物は、単なる荷物ではない。すべて、中央政府に貢納(*2)される税物なのだ。だから、荷札を分析することで、古代の税制運用の実態に迫ることができる。ここでは荷札をめぐる二つの分析を紹介したい。まずは、文字に書かれた内容の分析から。

内陸部の塩?

荷札には、基本的に荷物の中身の他、荷物を送った送り主——つまり税物の貢納者——の名前や、住所などが書き込まれる。だから、住所として記載された地名から、その土地では奈良時代にどのような品々を産出していたのかを知ることができるはずであり、またどのような人物がその品を生産して納めていたのかを知ることができるはずである。

B
はず、というのはどういふことか。確かに、ワカメの名産地として贄——天皇用の高級食材——の荷札木簡に登場する地域は、たとえば徳島県の鳴門など、今に至るまで変わらぬワカメの名産地だ。だが、いつもそううまくいくわけではない。荷札に書かれた地名を地図に落としてい

くと、とんでもない場所にたどり着く場合もあるのだ。

日本海に面する若狭地方(福井県西部)は、今日でも豊かな海の幸で知られる。奈良時代、若狭国はその豊かな海の幸を天皇に捧げる、「御食国」であった。高級食材の供給源である。一方、塩の生産も盛んであった。平城京で出土する塩の荷札で最も多いのが、若狭の塩荷札である。

日本では、塩は海岸沿いで作られる。

ウ

り着くことがある。

エ

、塩荷札に書かれた土地はちつとも塩の名産地ではないのだ。そこに名前を記された人が、実際に塩の生産者かどうかだつて、アヤしいものである。

なぜこうしたことが発生するのか。その理由として、若狭国が中央政府によって、国全体で塩を貢納する地域と位置づけられ、海岸部も内陸部もこぞつて塩の貢納にあたるのが求められたからだ、と考えられている。海の無い内陸部の人々も塩を貢納しなければならなかったため、塩を作るための土器生産や薪の供給などの分業体制を通じて塩生産に関わつたり、あるいは別の物資と塩を交換したり——つまり沿岸部の人々から塩を購入したり——して、塩を納めた、という訳である。こうした分業や交換は、自然発生的なものではない。若狭国が塩貢納国と位置づけられたことに由来する。だから、国や郡といった役所が媒介やとりまとめで重要な役割を果たしたことは、想像に難くない。

若狭国塩荷札の分析を進めると、若狭の塩が「備蓄用」特別加工品だったことが判明する。古代に塩は、保存の利かない、消失しやすいものと認識されていた。にがり分が多いため、空気中の水分を吸収して、自然に溶けてしまうのである。そこで、長期保存には特殊加工が必要だった。若狭国は挙国体制で、大型の土器を利用し大規模な備蓄用塩生産を行なっていた。塩の備蓄は米の備蓄と並んで、富の備蓄の中核であり、国力の備蓄に他ならない。若狭国は、古代国家の国力備蓄の一翼を担っていたのである。(……略……)

全国すべての国々がこうした体制を敷いていたかはわからない。だが、単に数力国の特例というわけでもないだろう。古代国家は、各地の名産品をただかき集めていたわけではない。地域ごとの特性を考慮しつつ、効率よく大量に貢納させるために、分業や交換を手配するなど、生産体制の整備に至るまでも行なっていたと考えられるのである。

書かれた場所から

次に、木簡の使われ方を分析することから、浮かび上がってくる事実を考えたい。

確保された貢納物は、どこに集約され、どこで梱包されたのか。伊豆^{Cいず}国の荷札木簡を分析すると、この点についても知ることができる。

古代の地方行政は、国の下に郡が置かれ、郡の下に郷が置かれた。国には中央政府から役人が派遣されるのに対し、郡の役人には地元の有力量者が採用される。一方、郷がどの程度の行政的な役割を果たしたのかは、あまり分かっていない。

まず、荷札の筆跡から、荷札が郷ごとにまとめて書かれていたらしいことが判明している。また、伊豆国の荷札には追記がある。リツリ^クヨウではカツオの貢納量は重さで規定されている。この規定の重量は、貢納者の住所氏名と共に、最初に木簡に書き込まれる。一方、実際のカツオの大きさには個体差があるから、重量でそろえるためにはカツオの匹数で調整しなければならない。

数は違ってくる。コ、実際のカツオの数を記した追記を後から行なう訳である。この追記は、郡ごとにまとめてなされたらしいことが判明している。

現実の荷物がなないと、実際にカツオ何匹分が荷物になっているか、知ることができないから、追記は荷物が作られた後のはずだ。また、この追記は、荷造りした後、ひもが掛かる場所にも書き込まれているから、荷札が荷物に括り付けられる前に書き込まれたはずだ。そうすると、追記は、荷造り完了後、荷物に荷札が括り付けられるまでの間に書き込まれたことになる。

その場所はどこか。郡単位で追記の筆跡に共通性があるというから、郡の役所の可能性が高い。郡の役所で形状の確認がなされ、荷札への確認の書き込みが行なわれて、荷札は荷物に括り付けられた。貢納体制全体の中で、郡の果たした役割の大きさがみてとれるし、こうした点から考えると、生産体制の整備においても郡が大きな役割を果たした様子が知られるであろう。

さて、追記が現物の荷物を目の前にして書かれたものであるのに対し、それ以外——貢納者の住所氏名、貢納品名や貢納規定量など——の文言は、何を根拠に書かれたのか。荷札作成時にはまだ荷物はないから、後で追記が必要になる。つまり、荷物とは関係なく、前もって荷札の作成が行なわれていたことは明白だ。荷札に書かれた文言の特徴を考えると、一つの可能性が浮かび上がってくる。

それは、帳簿を元にして、機械的に荷札を作成した、という想定だ。古代には、計帳や調帳とよばれる帳簿が作成され、人々の住所や名前、貢納すべき品々がリスト化されていた。荷札の記載はこれらの帳簿の記載と非常によく似ている。荷札の記載は、地域や品物・税目によって違いがあるが、帳簿の記載との類似性は荷札全般に共通した特徴といえることができる。つまり、荷札は現実の品々や人々とは直接は関係なく、帳簿に基づいて、帳簿を分解するようにして作成された。これらの帳簿は郷ごとに一巻となっているから、巻物ごとに分担すれば、郷単位で筆跡

が変わることは自然である。

つまり、荷札を荷物に装着する作業は、帳簿の分身である荷札が、現実の品々と遭遇し、帳簿上の内容と現実の状況のすりあわせを行なう作業だったのだ。

荷札が果たした役割

以上、荷札木簡をめぐる二つの分析を紹介した。ここから、どのような古代国家の姿が浮かび上がってくるだろうか。

日本古代国家の特徴の一つとして、「個別人身支配」がシ^サテキされている。地方の行政単位とか、社会的な集団ごとではなく、一人一人の各個人を国家が^シ掌握し、それぞれに負担を課す、というものである。貢納品に付けられた荷札に書き込まれた人々の名前は、こうした支配制度を具現化するもののようにも見える。

しかし、現実はこちらと違う。たとえば、先述のように、生産体制を整えていたのは郡を中心とする地方行政機関である。だが一方で、さまざまな帳簿の上では「個別人身支配」は実現していた。つまり、生産された貢納品は、荷札木簡が装着されることで、帳簿上の「個別人身支配」に組み込まれていったわけである。荷札が装着されることで、実際には組織的な生産体制によって生産された品々が、帳簿上の個人の負担に置き換えられていったのだ。

こうした状況について、「個別人身支配」は帳簿上の幻想だと評価するか、それとも「個別人身支配」の実現への努力と評価するかは、論者によるであろう。ただし、木簡を考える視点からすると、木簡が古代社会で果たした一つの役割を鮮やかに示している。

古代国家は支配の基軸として、大量の帳簿を作成した。この帳簿群は、総括的・総合的なものである。一方、支配を実現するため向き合わなければならぬ現実の人や物資は、非常に個別的で具体的である。

はじめとする木簡は、

Y

、時に生じる矛盾を吸収しつつ、国家や社会の潤滑な運営に大きな役割を果たしていたのである。

X

、木簡だった、ということではできないだろうか。荷札を

(馬場基「荷札が語る古代の税制」『木簡から古代が見える』による。出題にあたり、一部を省略した。)

- *1 荷札木簡……古代において、物資の運搬や流通の際、荷物の内容や送り主、送り先などを木片に墨で書き、荷物に取り付けたもの。
- *2 貢納……国や地主などに税として生産物や労働力を納め渡すこと。

問一 傍線部アと熟語の構造が同じものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

- ア 直結 ① 出世 ② 地震 ③ 暗示 ④ 創造

問二 傍線部イ、キの本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 2 ～ 3。

- イ うまくいく 2
-
- ① 納得することができる
 - ② 位置づけることができる
 - ③ 知ることができる
 - ④ 応用することができる

- キ 一翼を担って 3
-
- ① 全体の中で一定の義務を引き受けて
 - ② 全体の中で一定の責任を担って
 - ③ 全体の中である一部に特別な関わり方をして
 - ④ 全体の中である一部の役割を果たして

問三 空欄ウ、エ及び、空欄ケ、コを補うのに最も適当なもの組み合わせを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は

④
⑤

ウ、エ

- ④ ③ ② ①
- ④ ウー反対に
 - ③ ウーとはいえ
 - ② ウーところが
 - ① ウーしかしながら
- エー要するに エー言い換えれば エーつまり エーそれを踏まえ

ケ、コ

- ④ ③ ② ①
- ④ ケーむしろ
 - ③ ケーなぜならば
 - ② ケーしたがって
 - ① ケーだから
- コーだとすれば コーそれなら コーときに コーそこで

問四 傍線部オ、ク、サに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は ⑥ ～ ⑧。

オ
アヤしい

- ⑥
- ① 地震をケイカイする
 - ② カイキ現象が起こる
 - ③ 当時の心境をジュツカイする
 - ④ 女性がユウカイされる

ク
リツリヨウ

- ⑦
- ① 畑にヒリヨウをまく
 - ② 選手をゲキレイする
 - ③ ヨウリヨウが悪いやり方
 - ④ 社長レイジヨウと交際する

サ
シテキ

- ⑧
- ① シンシな態度
 - ② シショウの教えに従う
 - ③ 世界クツシの名曲
 - ④ 戦いにトウシを燃やす

問五 傍線部力と同様の意味関係で構成されている熟語として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- カ 土器 ① 鉄器 ② 凶器 ③ 茶器 ④ 食器

問六 傍線部シと同じ読み方のものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- シ 掌握
- ① 珠玉の一品に出会う
 - ② 民事訴訟を起こす
 - ③ 執念でやり遂げる
 - ④ 由緒ある家柄

問七 傍線部A「古代の税制運用の実態」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 中央政府と国が協力しながら税物と税収を決め、中央政府が荷札に納税者の情報を記入させることで一元的に税を管理していた。
- ② 中央政府は、帳簿によって個人を管理し、国ごとに納税するものをリスト化し、台帳の管理に木簡を使用していた。
- ③ 中央政府は、各個人に納税を義務付け、国や郡に管理させる一方で、税物をきちんと生産できるよう環境を整えるなどしていた。
- ④ それぞれの国や郡に税物と税率を決めさせることで実務的な役割を担わせ、中央政府は国や郡を取り締まる役割を担っていた。

問八 傍線部B「はず、というのはどういふことか」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

12。

- ① 木簡に書かれている住所の土地や送り主の人物が必ずしもその貢納物の直接的な生産地、生産者ではないこともあること。
- ② 木簡に書かれている住所の土地がその貢納物の名産地である場合が多いが、中には名産地ではなく貢納物の質が劣ることもあること。
- ③ 木簡に書かれている住所の土地を地図でたどると、とんでもない場所にたどりつくことがあり、その理由を説明するのが難しいこと。
- ④ 木簡に書かれている住所の土地や送り主の人物と、その貢納物の生産地や生産者が一致しない事例があり、信頼できない場合があること。

問九 傍線部C「伊豆国の荷札木簡を分析する」とあるが、この分析の結果として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号

は 13。

- ① はじめに、中央政府から配布された荷札に貢納者や貢納量などの個別情報を記載した。その後、貢納物を準備し、郡の役所で記載された貢納量を確認し、追記をした後、荷造りをした。
- ② まず、中央政府の帳簿を元にして、郷ごとに荷札に貢納者の住所、氏名、規定の重量などを記載した。その後、貢納物を準備し、役所で計測した実際の重量に書き換えてから荷造りを行った。
- ③ まず、郷ごとにまとめて荷札を作り、貢納者の住所、氏名、規定の重量を記載した。その後、貢納物を生産し、荷造りをする際、郡の役所で重さを計測し、荷札が荷物に装着されたことを確認したうえで荷物の数量を書き込んだ。
- ④ はじめに、郷ごとにまとめて荷札を作り、貢納者の住所、氏名が記載されるとともに、貢納量が決められた。その後、貢納物を準備し、荷造りの後、郡の役所で追記を行い、荷物に荷札を装着した。

問十 空欄X、Yには前の傍線部D「木簡が古代社会で果たした一つの役割」の内容が入る。これを補うのに最も適当なものの組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| ① X―したがって、中央政府と地方行政機関を結びつけたのが | Y―古代国家と地方を行き来し |
| ② X―そして、古代国家が支配のシンボルとして利用したのが | Y―権威の象徴であり |
| ③ X―この両者の間にあったのが | Y―その両者の間を取り持ち |
| ④ X―この両者の仲裁をしたのが | Y―対立する両者の言い分を全て受け止め |

問十一 本文の内容と合致しないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 古代の荷札の形状や書かれている文字などを合わせて分析することで、当時の荷物や梱包、荷造りの様子などさまざまなことが分かる。
- ② 古代国家は内外に国力を誇示することを目的に米や塩の備蓄に努めており、若狭国をはじめとする各地方は特産品を貢納することによって貢献していた。
- ③ 古代の行政区分は、中央政府、国、郡、郷の順で分割されていたことが分かっており、行政区分によって異なる役割を担っていた。
- ④ 古代国家は帳簿を作成し、人々の住所や氏名を郡ごとにまとめていたが、「個別人身支配」が現実に成立していたかどうかは論者によって意見が異なる。

イルカ追い込み漁

イルカといえば真つ先に思い浮かぶのが水族館のイルカショーだ。見事なジャンプに観客は拍手カッサイ、最近では前列に座り、あえて水かけられるのが流行りで、簡易雨具を着て叫ぶことを楽しむ人が増えている。ところが、平成二十七年(二〇一五)五月十日、この人気者が見られなくなるかもしれないというニュースが流れた。世界動物園水族館協会が、日本の水族館が和歌山県太地町の追い込み漁で捕獲したイルカを手しているのは倫理規範違反であるとして、動物園と水族館からなる日本の協会の会員資格を停止したというのである。

太地は現在日本でイルカの追い込み漁を行っている唯一の町で、捕獲したイルカは食用として販売されるほか、生体として国内外の水族館などの施設に売却されている。追い込み漁というのは、イルカの群れを沖合から入り江に追い込み、網で囲い込んで捕獲するという漁法で、かつては全国各地で行われていた。太地の追い込み漁は映画「ザ・コーヴ」(*1)で一方的に批判されていたから、今回の措置は、その延長線上の出来事に違いはないと思っただろう。世界協会から除名されると、希少動物のハンシヨクや交換といった動物園の本来の目的を達成するネットワークの外に追いやられてしまう。これでは太地での追い込み漁の歴史や住民の生活文化を云々するまでもない。停止措置を受け入れるかどうかという会員投票の結果は予想通りであった。同月二十一日の朝刊各紙のほとんどが一面でこの結果を報じており、見出しもほぼ同じだった。すなわち「追い込み漁イルカ入手断念」に続き、それぞれ社会面において水族館のコメント、太地の反応などを書いていたが、この決定は止むを得ないというのが基本的な論調である。しかしこの出来事は、単にイルカの追い込み漁継続の当否が問われたということではない。この背景には、野生動物保護さらには動物の権利・福祉を叫ぶ世界的な運動がある。もともと親しみやすく、知能も高い動物とされているイルカは、このような運動にとって戦略的に格好の素材となっているのである。

イルカ殺しとイルカ食

イルカ漁に対しては、それに批判的な立場から「イルカ殺し」という言い方が早くからなされている。たとえば藤原英司は、「海からの使者イルカ」において、「日本人とイルカ―皆殺しの歴史」という項をたて、静岡県伊東市の富戸や川奈、同県賀茂郡安良里など伊豆半島各港でのイル

カ漁における「イルカ殺し」を厳しく糾弾している。しかし、この刺激的な言い回しは、人殺しに通じる倫理的な価値観^Eを連想させるものである。少なくとも江戸時代から伊豆各地で生業の一部として継続されてきたイルカ追い込み漁に対する冷静な表現とはいえない。イルカ漁が絶対的な悪行であるということを前提にしているからだ。衆目のもとで動物を殺すことは必ずしも禁忌^オではない。中国や東南アジアでは、春節を前にしてご馳走^{チヂウ}となる豚を殺すところを子どもたちが周りで見守っている。(……略……)

ヒトは他の生き物の生命を断つことで初めて生存が可能であり、そこではヒト以外、すべての生命体が対象になる。静岡市に生まれ育った私は幼児期から当たり前のおかずとしてイルカを食べてきた。ところが、進学して他県の友人との間で、イルカを食べることが話題になったとき、なんて野蛮なんだと馬鹿にされた。大きさに言えば食文化の地域性を、きつい言葉で否定されたのである。しかし、イルカは決して静岡県だけで食材とされているわけではない。解剖学者で鯨類の研究者でもあった小川鼎三^{テイゾウ}は塩釜^{しおがま}や石巻^{いしのまき}など東北地方の魚市場でイルカを入手して研究をスタートさせており、また太平洋戦争中には東京の一流レストランでイルカが出されたと書いている。明治中期には伊豆で捕れたイルカが小田原・東京に出荷されていた記録もある。日本各地でイルカ漁が行われ、長きにわたってイルカを捕獲し、食卓に載せてきたのである。

カ

イルカ漁に対する批判が国の内外からこれまでにないほど高まっている今、^A、いずれの立場にかかわらず冷静な判断を下すために、日本人はイルカとどのような関係を持ち続けてきたのか、その実態を詳しく知ることが必要である。いまから二〇年くらい前、日本にはイルカブームが起きていた。すでに昭和四十一年(一九六六)からテレビで「わんぱくフリッパ」が放映されてイルカ人気は高まっていたが、神経生理学者ジョン・C・リリーによる『イルカと話す日』が一九九四年に出版され、異種間コミュニケーションの可能性に期待が寄せられるようになった。「イルカはなんとか私たちとコミュニケーションをかわそうとしている」というのがこの本の趣旨であった。これに呼応するかのよう^キに美しいイルカ写真集も次々と刊行され、いつぼうでは、イルカと接することでイヤシ^キを得るというヒーリングも流行し、さらにはイルカと泳ぐことで癌^ガがなおったというような、一種の「イルカ教」ともいえそうな書籍も続々と刊行された。

その後、イルカとの会話の可能性はほとんど話題にならなくなったが、ヨーロッパ人が古代から継承してきたイルカ聖視の意識のもとに、環境問題の象徴的存在、あるいは野生動物保護運動の核心としての位置づけがなされるようになって、冒頭^Bに示したような状況を生み出している。(……略……)

寄り鯨

平成十二年(二〇〇〇)の四月六日、静岡県大須賀町(現掛川市)の海岸に大きなマッコウクジラがストランディング(*2)したことがあった。そのころ筆者は高校の校長をしていて翌七日が入学式であった。テレビニュースやラジオで刻々と救助作戦の様子が報道される。どうしても現場を見たい。入学式が終わるや礼服をジーンズに着替えて車を飛ばした。上空にはヘリが舞っている。残念ながら現場到着前にカーラジオからクジラは息を引き取りました(死んだとは言っていない)と聞こえてきたが、海岸についてみると、巨大なマッコウクジラが体を半分波に洗われながら横たわり、大勢の見物人が集まっていた。(……略……)

この時、町長から聞いた興味深い話を紹介しよう。鯨をなんとか救おうと(*3)大勢の人が海岸でバケツリレーをしていた最中に一人のおじいさんが空のバケツをもって町長室に現われた。町長が「あんたも鯨を助けに来たのか」と尋ねたら、「そうじゃない、おれの分け前をこれに入れてくれ」と言ったのである。海岸にクジラやイルカが漂着したとき、新鮮であれば肉を業者に販売し、同時に村人で分けあって食べる。これらは寄り物といい、天の恵みと考えられてきた。おじいさんが手にしていたバケツは、遠州灘えんしゅうなだにおけるこのような民俗を象徴していたのだ。(……略……)

そこでもうひとつ思い出すのが、これよりもさらに一〇年前、平成二年(一九九〇)十一月三日、九州五島列島の福江島(長崎県五島市)三井楽みいらくに五〇〇頭にのぼるイルカが上陸したので、地元民が海岸に集結し、争ってイルカの息の根を止め、解体して持ち帰ったという「事件」である。この状況が一斉に全世界に流され、イギリスの大衆紙は「ジャップがまたやってくれた」というようなどぎつい見出しで非難の記事を載せた。それに便乗したわけではあるまいが、日本国内のマスコミも地元民の行動を非難する論調に終始し、口を極めて批判したテレビキャスターもいた。

しかし、冷静に考えてみれば、イルカが大量にやってきたら、それをありがたく頂くのは昔からの日本人の伝統である。非難の声があれほど高まったのは、イルカを食べるといふ習慣を日本人の間でも知る人が少なかったのが最大の原因である。この三井楽の大騒動のあと私は現地を訪れて関係者からいろいろ話を聞いた。するとこの「事件」の背景が明確に浮かび上がってきた。現地には戦前から「いるか組合」といふ組織があり、海辺の集落が協力してイルカ捕獲のための取り決めをしてあったし、当日もそうした流れのなかで、従来どおりに作業したのであった。それが ケ として大きく報じられてしまったのだ。地元ではイルカ漁によって殺したイルカの慰霊碑を建立し、毎年その前で関係

者が慰霊祭を行っている。一基は海を見下ろす高所にあり、もう一基はかつてイルカ捕獲を盛んに行っていたという海辺にあつて、それには「海豚神」という文字が刻んである。碑の前には陽光にさらされて真っ白になったイルカの頭蓋骨がいくつつか、さりげなく置いてあつた。三井楽には積極的にイルカ追い込み漁を行ってきた歴史があつたのである。(……略……)

イルカと紡いできた日本文化

イルカ殺しという言葉説にも、三井楽に対する非難にも、歴史的な事実を押さえて分析するという視点が完全に欠如している。イルカ食用の痕跡は縄文遺跡においてすでにみられるだけでなく、遅くとも中世以降、イルカ群の回避を天の賜物たまものとして村落あげての追い込み漁が行われていたことを忘れてはならない。イルカ肉は周辺山間部にも流通して貴重なタンパク源になり、村内においては公共財の保持、働けない世帯への配分など、きわめて社会的な意義をもっていたのである。つまり、イルカ問題を考えるための基礎的な作業として、日本人は食資源としてイルカを捕獲してきたという事実を正確に知ることが必要である。その上コに立って、今日の諸問題を冷静に考える、いつてみれば当たりまえの作業が行われてこなかったことは、イルカにとつても、日本人にとつてもまことに不幸なことである。

(中村羊一郎『イルカと日本人』による。出題にあたり、一部を省略した。)

*1 「ザ・コーヴ」……二〇〇九年に公開されたアメリカのドキュメンタリー映画。和歌山県太地町のイルカ漁を批判的に描き、日本に対する反イルカ漁の動きを強化した。

*2 ストランディング……鯨類が海浜に生きた状態で座礁したり、死んだ状態で漂着し、自力で本来の生息域に戻れなくなること。

*3 鯨をなんとか救おうと……鯨は皮膚が乾燥すると生命が危うくなるので、人々はバケツリレーで水を運び、鯨に水をかけようとしていた。

問一 傍線部ア、イ、キに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 16 ～ 18。

ア カツサイ

- 16
- ① 野菜をサイバイする
 - ② 監督がサイハイを振る
 - ③ 難民をキユウサイする
 - ④ 岐阜県がシユサイの大会

イ ハンシヨク

- 17
- ① ハンヨウセイが高い部品
 - ② 商売ハンジヨウする
 - ③ 薬局にあるシハンの薬
 - ④ 人生のハンリヨを得る

キ イヤシ

- 18
- ① 救援物資をクウユする
 - ② ユカイな出来事
 - ③ 小学校のキヨウユ
 - ④ 政治家とユチャクする

問二 傍線部ウ、オと同じ読み方のものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 19 ～ 20。

ウ 糾弾

- 19
- ① 老朽化した建物
 - ② 羞恥心がない人
 - ③ 胸中を打ち明ける
 - ④ 天然の樹脂

オ 禁忌

- 20
- ① 興味津々に見守る
 - ② 既婚の息子
 - ③ 専門委員会に諮問する
 - ④ 学生時代を回顧する

問三 傍線部工「価値観」とあるが、末尾に「観」を付けて熟語を作らないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- 工 価値観 ① 宗教 ② 国家 ③ 透明 ④ 道徳

問四 空欄力、ケを補うのに最も適当なものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 22 ～ 23。

- 力 22 ① 百花繚乱 ② 賛否両論 ③ 異口同音 ④ 我田引水

- ケ 23 ① とんでもないこと ② 縁起でもないこと ③ 根も葉もないこと ④ 油断も隙もないこと

問五 傍線部ク、コの本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 24 ～ 25。

- ク 口を極めて 24
- ① はなはだ鋭い口調で
② 不平不満のある顔つきで
③ あふれる感情を抑えて
④ あらゆる言葉を尽くして
- コ その上に立って 25
- ① それを大局的に見て
② それを俯瞰して
③ それを前提にして
④ それを客観的に判断して

問六 傍線部A「日本人はイルカとどのような関係を持ち続けてきたのか、その実態を詳しく知ることが必要である」とあるが、日本人とイルカ

の関係について最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

- ① かつては太平洋側でも日本海側でもイルカの追い込み漁が行われていたが、現在はほとんど行われなくなった。一方、近年は欧米の価値観がテレビや本を通して広まったが、その価値観に疑問を抱く人々が増加している。
- ② 伝統的にイルカを食用する習慣があったが、古くから賛否も見られた。今から二〇年ほどまえにイルカブームが起き、テレビや書籍、写真集などが発売された。その後はイルカの食用を批判する声が高まっている。
- ③ イルカを食用としていた歴史は古く、各地で追い込み漁が行われていた。しかし、近年はイルカを食べる習慣が忘れられてきていることやイルカブームの影響もあり、イルカ漁への批判が高まっている。
- ④ イルカは昔から各地で食資源として重宝され、大切に扱われてきた。近年は水族館でイルカを見るのが一般的になり、イルカを食することに對して、野蛮だという意見が多数を占めるようになった。

問七 傍線部B「冒頭に示したような状況」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

- ① 海外の野生動物保護運動によって、住民の生活文化に加え、日本のイルカ漁の歴史もないがしろにされてしまっている状況。
- ② 世界動物園水族館協会が太地町のイルカ漁を問題視して、動物園と水族館からなる日本の協会の会員資格を停止した状況。
- ③ 世界動物園水族館協会が日本に圧力をかけ、現在日本で唯一行っている太地町のイルカの追い込み漁を一方的に禁止した状況。
- ④ 太地町のイルカの追い込み漁が野生動物保護運動によって世界中にニュースとして報じられ、世界から非難されている状況。

問八

傍線部C「興味深い話を紹介しよう」とあるが、なぜこの話が興味深いのか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

号は 28。

- ① 大勢の人が鯨を救おうと奮闘しているときに、鯨の分け前をもらうことを目的に町長室におじいさんが現れたことから、遠州灘のかつての風習を垣間見ることができたから。
- ② 鯨の命を救おうとしてバケツを使う人々がいる一方で、鯨の肉を運ぶためにバケツを使うおじいさんもいて、遠州灘に多様な文化が育まれてきたことが改めて確認できたから。
- ③ 大勢の人が鯨の命を救うためにバケツを使用している中、町長室に現れたおじいさんが持っているバケツが遠州灘に住む人々の価値観の違いを象徴していたから。
- ④ 鯨の命をなんとか救おうとして浜辺で力を合わせている人々と、肉をもらうために町長室に現れたおじいさんの考え方が大きく異なり、時代の移り変わりを感じたから。

問九

傍線部D「『事件』とあるが、筆者はなぜ『事件』という語に鍵括弧をつけたと考えられるか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- ① 日本の民俗として伝統的に行われてきた習慣が、ヨーロッパ人の価値観に照らして悪行として報じられたことを示すため。
- ② イギリスの大衆紙が強い言葉を使い、日本の伝統を貶める行為を行ったことに憤りの気持ちがあることを示唆するため。
- ③ イギリスの大衆紙に便乗し、日本のマスコミも地元民を非難する報道を行ったという状況を客観的に記述するため。
- ④ イギリスと日本のマスコミの報道をきっかけに、イルカを殺したり、食べたりするべきではないと世論が変わったことを伝えるため。

問十 本文全体を通して、イルカ漁とイルカ食に対する筆者の主張はどのようなものだと考えられるか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 30。

- ① 自然や動物を保護する世界の潮流を参考にしながら、我々は今後どうすべきか、歴史的な観点から改めて議論するべきだ。
- ② 鯨類を聖視するヨーロッパ的な思考と異なっていたとしても、我が国が独自に築いてきた伝統を守り続けていくことが重要だ。
- ③ ヨーロッパ人の思考や価値観を言うがまま受け入れるのではなく、我が国の正当性を世界に向かって主張するべきだ。
- ④ 我が国のイルカの捕獲や食の歴史、また、それに関わる民俗を踏まえたくうえで、議論を展開することが必要だ。